

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 都市の進化

5 モビリティデザインとは何か
横浜国立大学 理事(国際・地域・広報担当)・副学長
同大学大学院 都市イノベーション研究院 教授
中村文彦

9 コンパクトなまちづくりへ
横浜高速鉄道株式会社 代表取締役社長
前・横浜市副市長
鈴木伸哉

13 データ物語

14 Taste of the Season
森下典子

16 首都高HEADLINE

18 business essay
“持続可能”を本気でやっている国
旅行作家
石田ゆうすけ

20 つくる人まもる人
首都高速道路株式会社
内海和仁・岡田貴司

22 高速百景 中野正貴

cover photo by Kōji Arimitsu
contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited



illustration by Takao Nakagawa

column | RAMPWAY 28

首都高名所案内

回想の ヨコハマ

コラムニスト

泉 麻人

て山下公園の芝生でピクニック気分
食べたのだ。しかし、その記憶は公園
にいた赤トンボと銘柄が重なって捏造
されたもののような気もする。8月9
日の日記なのだが、印象に残る真っ赤
に色づいた赤トンボ(アキアカネ)が
横浜の港あたりに群れ飛んでくるの
は、もともと秋が深まった季節はずだ
から、複数の記憶が重なった可能性は
高い。とはいえ、このオリンピック前
年の小1の夏に、初めて横浜に行った
ことはまちがいないだろう。

その後の横浜の思い出は、神奈川県
の学校に通う高校時代になる。197
0年代の前半、横浜育ちの友人の間で
は「浜マンボ」とか称する、妙に裾の
狭いズボンが流行していて、僕も勧め
られて学生服のズボンの裾を16センチ
くらいにすぼめて、着がえるときにな
かなか脱げずに苦労したおぼえがあ
る。もともと、正統的なトラッドファッ
ションの店が集まる元町の通りを歩い
たのもこの時代のことだ。胸の所にイ
ニシャルの刺繍を施した、レターセー
ターを「ポピー」という老舗で手に入
れた。

大学生の頃に車の免許を取ったの
で、それ以降は首都高速を使って横浜

横浜の原風景として思い浮かんでく
るのは、幼い頃に連れていってもらっ
た山下公園。港に停泊する船を眺めて、
無数に飛ぶ赤トンボを帽子を振りまわ
して捕まえた記憶がある。

実は、そのときのこと……と思しき
話が小学1年生の夏の絵日記帳に記録
されている。とはいえ、話の主役は洪
谷から乗った東横線で、当時(昭和38
年)活躍していた「青ガエル」と呼ばれ

た緑色の電車の絵がクレヨンで描かれ
ている。短文なので文章を紹介しよう。
「ぼくは はじめて とうよこせんに
のりました。みどりいろのきれいなで
んしゃで しぶやから よこはままで
三十ふんで ついてしまいました。」
これと同時に思い出されてくるのが、
洪谷の改札近くの東横のれん街に
「赤トンボ」という有名なサンドイッ
チ屋が入っていて、それを買っていつ

へ出掛けるようになった。とりわけ80
年代中頃に結婚して以降、妻の知人が
横浜の映画祭に関係していることも
あって、イベントが開催される2月の
初めにほぼ例年横浜を訪れる。横浜駅
の横を通り過ぎて、片側にみたとみらい
地区の近未来調の街並が見えてくると
横浜にやってきた……という思いがす
る。ランドマークタワーやインターコ
ンチネンタルホテルや大きな観覧車
が織りなす景色が、いつしか横浜を象徴
するようになった。

ちよつと方角を誤って、ぐるぐる巡
りしながら訪ねる中華街もいい。ゆっ
くり食事をして暗くなってきた横浜は
夜景がなじむ街でもある。ドライブの
BGMとして、ジャズもロックもR&
Bも似合う街だけど、日が暮れた横浜
といえは僕の世代のBGMは決まってい
る。♪街の灯りがとてもきれいね
……いしだあゆみの「ブルー・ライト・
ヨコハマ」を流さずにはいられない。

いずみ あさと / 1956年、
東京都新宿区生まれ。慶
應義塾大学商学部卒業。
79年、東京ニュース通信
社に入社。『週刊TVガイ
ド』などの編集者を経て、フ
リーのコラムニスト。近著に
『大東京23区散歩』(講
談社)がある。